

# 生体認証装置

種類

インタフェース

運用

Synergisとの連携

# 生体認証装置の種類

- 虹彩認証
- 静脈認証 指、手の甲、手のひら
- 指紋

# 生体認証装置のインタフェース

- Wiegandインタフェースはアメリカの古い国内規格ですが、拡張を繰り返し現在では128bitsまで対応します。
- 生体認証装置には一般的に入力用Wiegand / 出力用Wiegandが装備されています。入力用にはカードリーダー / 出力用はGenete Synergisの様な入退管理用のコントローラーに接続します。
- テンキー、PINコード入力用でWiegandコードを生成します。

# 生体認証装置の運用 1:1 / 1:N

- 生体認証は1:1または1:Nに分類されます。
- 1:1は誰であるかわかっている認証です。例としては銀行のATMの静脈認証はICバンクカードを読みとります。ここに静脈データがあります。かざしてスキャンした情報と一致しているかチェックします。つまりたくさん(N)から探す必要が無いということです。
- 1:Nは多量の認証データから探し出します。

# 生体認証装置の運用 1:1

- 例えばPINコード6桁打ち込んで、生体認証させる。非常にレスポンスが速い。つまりこのPINコードからWiegandコードが出力されSynergisが後処理する。
- Mifare / Felicaカードをかざして、生体認証させる。非常にレスポンスが速い。つまりこのFelicaのIdmからWiegandコードが出力されSynergisが後処理する。

# 生体認証装置の運用 1:N

- 生体認証させる。大量のデーターからマッチングさせる。マッチングインデックスからWiegandコードを生成しSynergisが後処理する。

# 生体認証装置の運用方法

- 1:1か1:Nで運用するかは用途、要求で判断する。

# 生体認証装置のSynergisとの連携

